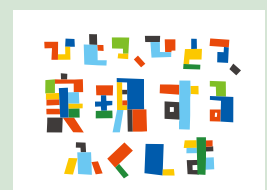


福島県林業

No. 744

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 杉山純一



8

2026

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 皆鶴姫が見た夜空



ウッドファースト社会の実現に向けて

福島県木材協同組合連合会

会長 風 間 良 一

福島県木材協同組合連合会の事業運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の県内の新設住宅着工戸数は、前年比九一割の六、八八〇戸となり九年連続で減少、全国的にも同様に減少傾向となっております。製材品の多くを県外に出荷する福島県の木材業界にとって厳しい状況が続いています。

木材は建築資材等として多く用いられ需要の大部分は低層（一～三階建て）住宅が占めておりますが、人口減少等により新設住宅着工戸数が長期的に減少していく可能性を踏まえると、非住宅・中高層建築物での木造化・木質化を進め、新たな木材需要を創出することが求められております。

このような中、令和三年に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用促進に関する法律」いわゆる「都市の木造化推進法」が施行され、対象が公共建築物から一般建築物に拡大されたことにより、施主となる事業者の木材利用に対する機運が高まり、非住宅・事業用等の民間施設の木造・木質化の取組が徐々に増加してきました。さらに、本年六月五日に閣議決定された新たな「森林・林業基本法」では「森林・林業・木材産業の好循環による『森の国・木の街』の実現」が新たな方針として位置づけられ、非住宅等への木材利用が一層促進されるものと期待しております。

一方、本県の森林資源は年々充実しており、人工林の多くが今まさに利用期を迎え、地球温暖化防止、国土強靱化、地方創生等の観点からも木材の計画的な活用を通じて、森林を維持・保全していくことが重要となっております。

当連合会におきましても、森林整備に繋がる木材活用を通じて豊かな森林の恵みを未来へつないでいくため、昨年十二月に林野庁の「森の国・木の街」づくり宣言に参画し、JAS製材品をはじめとする安全・安心な県産材の安定供給、中大規模建築の木造化に必要な部材の開発、公共施設をはじめとした非住宅での県産材の需要拡大に取り組んでまいります。また、昨年開催された「大阪・関西万博」では「大屋根リング」やパビリオンに本県で生産加工された木材が使われ、本県の木材と加工技術の高さを国内外に発信いたしました。来年三月に横浜市で開催される「国際園芸博覧会」の施設整備へも県産材を提供するなど、様々な機会を通じて県産材のPRと木材の利用促進に取り組んでまいりますので、引き続き皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

《も く じ》

とびら

ウッドファースト社会の実現に向けて

福島県木材協同組合連合会

会長 風 間 良 一…………… 1

ハタケシメジ・ムラサキシメジの菌床販売再開(1)…………… 2

県政コーナー

主伐・再造林の推進に向けた路網整備…………… 3～ 4

女性に向けたイベント「森で出会う、はじめての漢方」を開催しました…………… 5

令和8年度 安全衛生研修会を開催しました…………… 6

林業アカデミーふくしま研修日誌③…………… 7

普及指導員通信…………… 8

林経協だより…………… 9

公社だより…………… 10

木の文化を育む⑧…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば第159話・お知らせコーナー…………… 13

ハタケシメジ・ムラサキシメジの 菌床販売再開①

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター

ハタケシメジ・ムラサキシメジの菌床販売再開について、二回にわけて紹介します。

皆さまは、ハタケシメジやムラサキシメジというきのこをご存じでしょうか。

ハタケシメジは初秋に道端や公園など人家近くの身近なところに発生し、癖がなくシャキシャキとした食感を持つとても美味しいきのこです（図ー1上）。また、ムラサキシメジは落葉を分解し、晩秋にきれいな菌輪をえがいて発生する紫色の美しいきのこです（図ー1下）。この二種類のきのこは菌床を利用することで簡単に露地栽培することが出来ます。ハタケシメジは林内や畑地に穴を掘って地面に菌床を埋め込むことにより、ムラサキシメジは林内に菌

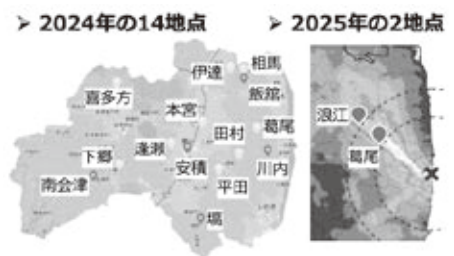
床を置き、菌床の上部や周りにマウンドをつくるように落ち葉を被覆することにより栽培します。

財団法人福島県きのこ振興センター（現：公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会きのこ振興センター）（以下、きのこ振興センター）では、震災前に露地栽培きのこの産地づくりに取り組んでおり、ハタケシメジやムラサキシメジの菌床を製造し中山間地域のきのこ生産者に販売していました。しかしながら、二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故の後に、出荷制限による規制はうけなかったものの、菌床露地栽培きのこの放射性セシウム汚染の実態が不明なため、菌床販売を休止するとともに栽培を自粛しました。

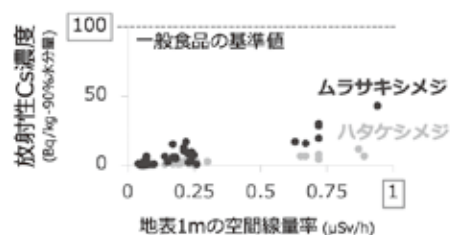


図ー1 露地栽培により菌床から発生したハタケシメジ(上)とムラサキシメジ(下)

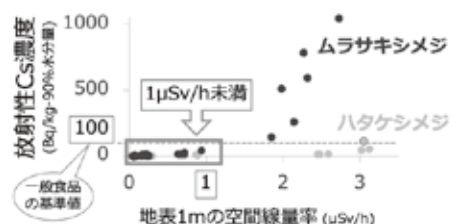
震災から十二年経過した令和五年に、ハタケシメジなどの菌床露地栽培の再開に向けて安全性を確認するため、国立環境研究所に相談しま



図ー2 2024-25年の試験栽培場所



図ー3 1 μSv/h未満の14地点の結果



図ー4 1 μSv/hを超えた2地点を追加

した。その結果、令和六年度から連携して調査研究することとなり、現在は、同研究所および福島国際研究教育機構(FIREI)と連携して実施しています。

林内における菌床露地栽培の再開を目指すにあたり、以下の二点について、調査を実施しました。

①どの程度の汚染度の場所であれば、栽培したキノコが食品基準値を超えないか？

②キノコ中の放射性セシウムは、土壌・落葉・菌床のうち、どこに由来するのか？

このうち、②については解析内容が複雑なため、本稿では①の「どの程度の汚染度の場所であれば、栽培したキノコが食品基準値を超えないか？」について紹介します。

露地栽培試験は、すべて落葉広葉樹林内で実施しました。二〇二四年は空間線量率が1 μSv/h未満の十四地点、二〇二五年は1 μSv/h超えの二地点を試験地として、ハタケシメ

ジおよびムラサキシメジの菌床培地を試験地点に伏せ込みました（図ー2）。

その結果、空間線量率が1 μSv/hより低い地点では、ハタケシメジ、ムラサキシメジともに放射性セシウムが基準値を超過した個体は認められませんでした（図ー3）。一方で、1 μSv/hを超える地点では、両種ともに放射性セシウム濃度が増加する傾向が見られ、特にムラサキシメジでは高い濃度を示し、基準値を超える事例が確認されました（図ー4）。また、二〇二四年に設置した菌床については、二年目もキノコが発生することがあることから、継続して収穫・分析を行いました。その結果、ハタケシメジ、ムラサキシメジともに、一年目よりも濃度が高くなる傾向がみられ、ムラサキシメジについては基準値を超える事例も確認されました。

※二回目は、十一月号に掲載する予定です。

県政コーナー

主伐・再造林の 推進に向けた路網整備

福島県森林整備課



〇はじめに

福島県の民有林における人工林の面積は二〇四千鈔で、そのうち五〇年生を超える人工林は一四三千鈔と約七〇％を占めています。多くの森林が利用期を迎えており、この豊富な資源を活用し、森林資源を循環させていくため、主伐・再造林を進めていくことが重要となっています。

伐採した木材の搬出や、再造林のための苗木や資材の運搬、そしてその後の育林まで経済的に成立させるためには、路網整備が欠かせません。中でも、十ト積程度のトラックや林業機械が走行でき、簡易で丈夫な林業専用道は、集材距離の短縮や作業効率の向上、各種施業のコスト

低減に重要な役割を果たし、森林の多面的機能の発揮に向けた森林整備や、効率的で持続可能な林業経営に欠かせないものとなっています。

なお、林業専用道は、平成二二年度に作設指針が定められた比較的新しい林道の区分で、県内に四一路線整備されています。また、令和六年度は、林業専用道の開設に係る事業が二〇路線で行われ、林道開設が八路線であることと比較すると、路網整備の中核となつてきていると考えられます。

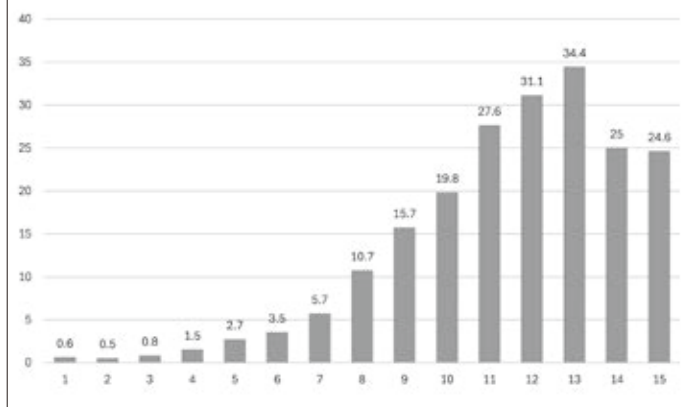
〇森林情報活用路網整備推進事業

森林整備課では、調査の省力化や林業専用道をはじめとする効果的な

路網配置、効率的な森林整備と素材生産を促進するため、平成三〇年度、令和五年度に「森林情報活用路網整備推進事業」において、県内二八市町村の航空レーザ測量を行っています。

航空レーザ測量とは、近赤外線レーザを用いた航空センサーで高精度の3D数値標高データを取得する測量技術です。航空

グラフ1 人工林の齢級別面積



グラフ1 人工林の齢級別面積

森林情報活用路網整備推進事業
(航空レーザ測量)実施市町村



図1 森林情報活用路網整備推進事業実施市町村

レーザ測量により、地表の様子が細かく把握できる微地形表現図や正射投影した空中写真であるオルソフォトなどの地形情報、林相区分図や樹頂点データなどの森林情報が得られます。これらのデータから森林の概況や施業が必要な箇所を把握し、森林へのアクセス方法を現場での作業システムを考慮し、机上で路網計画を作成することが可能となります。

この事業においては、森林情報から人工林の位置を把握し、微地形表現図等から周辺の崩壊地などの地形情報を得て、そのような箇所への路網の配置を避けたうえで施業の推進につながるような路網の整備計画を複数立てています。委託成果品は市町村にも配布し、路網整備に活用されています。

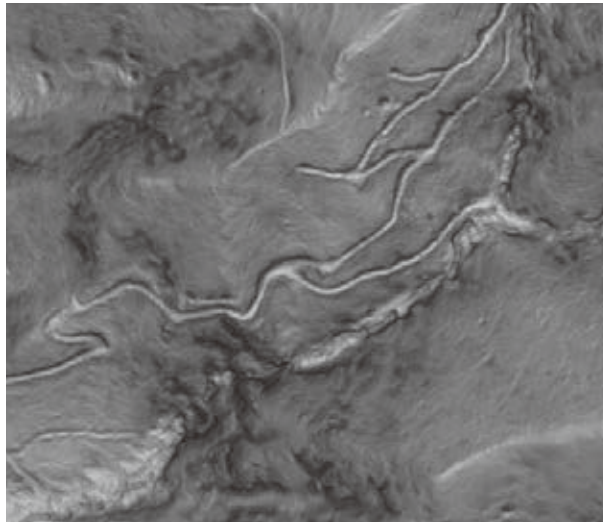


図2 微地形表現図

○今後の展開

県内において、主伐・再造林の推進と木材の安定供給を通じて林業地域の経済を維持するため、効率的な伐採・搬出を可能とする路網は重要な生産基盤となります。

また、地形や地質、地域の特性など森林が持つ多様な

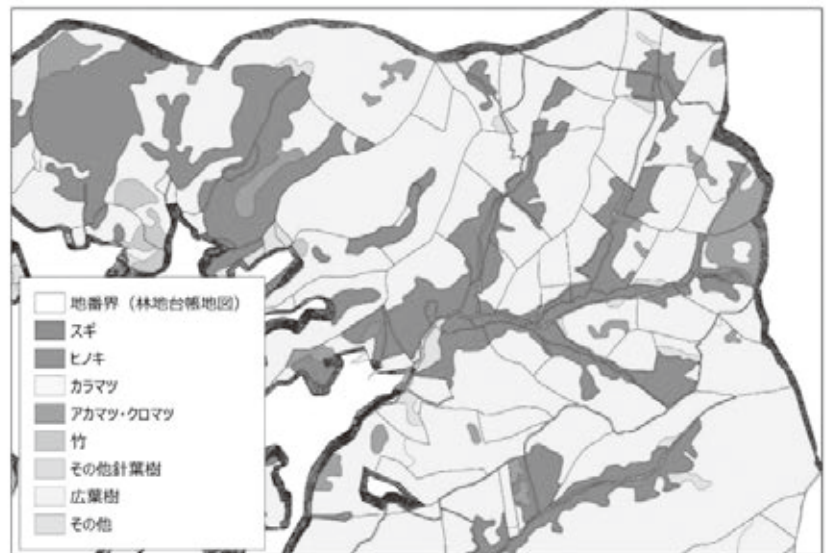


図3 林相区分図

条件を踏まえて整備され、丈夫で壊れにくい林業専用道は、水源かん養機能の維持や土砂災害防止といった公益的機能を発揮させ、森林を循環利用するために必要な植栽や保育作業にも継続して活用することができ

ます。

県では、引き続き、主伐や、その後の再造林、保育といった森林整備

推進のため、林業専用道をはじめとする路網整備の取り組みを進めていきたいと考えます。航空レーザ測量を実施した市町村におきましては、路網整備にあたり、当該データを是非ご活用ください。

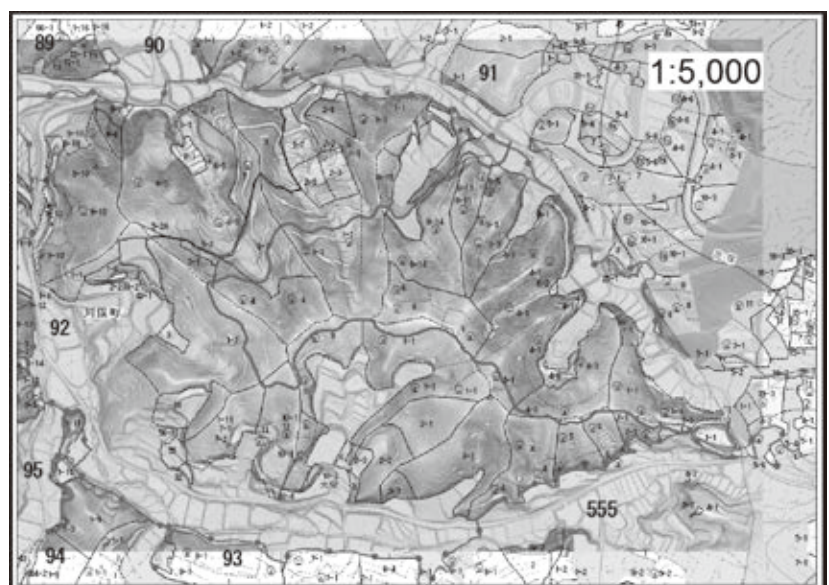


図4 林業専用道の計画図



薬草園散策の様子



野蚕について解説する
三田村敏正講師



植物や薬草について解説する
貝津好孝講師

女性に向けたイベント 「森で出会う、はじめての漢方」を開催しました

福島県森林・林業・緑化協会／福島県林業労働力確保支援センター

令和八年六月二七日（土）、女性向けイベント「森で出会う、はじめての漢方」を開催しました。本イベントは、当協会が実施する森林・林業担い手育成事業の一環として、森林や林業に興味・関心のある女性を対象に、見学ツアーやワークショップを通して森の魅力に触れていただくもので、年二回程度開催しています。

今回は、伊達市梁川町の港屋漢方堂薬局さんにご協力いただき、管理する薬草園の散策とオリジナル漢方茶を作るワークショップを行いました。案内チラシや当協会ホームページ、知人からの紹介、Instagramなどを通じて募集を行い、十九名が参加しました。

●薬草園の見学

歩きやすく整備された心地の良い園内を、薬草に詳しい貝津好孝氏・貝津有岳氏、昆虫に詳しい三田村敏正氏にご案内いただきながら散策しました。

カキオドシやドクダミ、トチュウ、サンショウなど、身近な植物を実際に見て触れながら、それぞれの特徴や薬効について学びました。途中で採集した秋田フキやゲットウ（月桃）は、お土産として持ち帰っていただきました。

昆虫観察では、ドクガの生態と危険性について解説を受け、毒針毛による皮膚炎の仕組みや注意点を教えていた

できました。また、三田村氏が研究しているカイコについても学び、野蚕※の蛾の幼虫やテグスの原料となるクスサンの繭も観察し、昆虫と人々の暮らしとの関わりについて理解を深めました。

参加者からは、「普段見慣れた植物にも薬効があることを知れて新鮮だった」「昆虫のこともすべて面白かった」「自然を見る視点が変わった」といった感想が寄せられました。

●漢方ブレンド茶ワークショップ

その後、国見町のアカリに移動し、貝津有岳氏を講師に迎えて、「漢方を知り、茶を楽しみ、身体を補う。」をテーマに漢方ブレンド茶づくりを行いました。

ワークショップでは、「陰陽」「五行説」「気血水」など漢方の基本的な考え方を学び、体質チェックを通して自分に合った生薬を確認しました。その後、効能や香りの好みに合わせて配合を考え、一人ひとりがオリジナルの漢方ブレンド茶を作りました。

終了後は薬膳カレーを味わい、学んだ漢方や薬膳を「食」を通して楽しみました。自分の体質と向き合いながら漢方を身近に感じ、日々の健康づくりに生かせる知識を学ぶ機会となりました。

【夏の養生のポイント】

漢方では、夏は体内に余分な水分や湿気がたまりやすい「湿（しつ）」の季節と考えられています。「湿」は食欲不振や胃腸の不調、体のだるさの原因となるため、冷たい飲食物や脂っこいものを控えて、胃腸にやさしい食事を心掛けることが大切です。また、苦味や

漢方の考え方などについて
解説する貝津有岳講師



漢方ワークショップの様子

酸味のある食材を取り入れることなども、夏の養生に役立つとされています。

薬草園での散策と漢方ブレンド茶づくりを通して、植物や昆虫、漢方について理解を深めるとともに、身近な自然と暮らしとのつながりを学ぶ一日となりました。また、生薬や野蚕を通して、自然の恵みを生かした人々の営みや知恵に触れる機会となりました。本イベントが、森林や自然をこれまでとは異なる視点で捉え、その魅力や価値を感じていただくきっかけとなれば幸いです。

※野蚕（やさん）

人手により屋内飼育される家蚕（かさん・カイコ）に対し、自然界に自生し、繭から生糸を取って利用する昆虫の総称

令和8年度 安全衛生研修会を開催しました

福島県森林土木建設業協会



石川俊幸会長あいさつ

生研修会を開催しました。

初めに、石川俊幸会長から、「今は熱中症や熊が深刻な問題となっており、今まで想像できなかったような事例への対策が必要となってきた。安心して職場を提供できるよう、今回の研修でしっかり安全対策やメンタルヘルスの方法を吸収していただきたい。」旨の挨拶があり、引き続き次のような講義が行われました。



研修の様子

〈労働安全研修〉

『最近の災害事例よりの安全対策』

講師 建設業労働災害防止協会

福島支援センター

主任指導員 向田 恵三氏

まず、平成二五年から令和七年までの労働災害データを中心に講義が進められました。国有林野事業における請負事業者等の重大災害のうち、治山・土木事業は二割を占めており、その内容を見ると、車両とともに転落した事案が五割を超えているとの説明がありました。重機は誘導員による誘導が基本であり、オペレーターの危険軽視も要因に挙げられるとのことでした。ヒューマンエラーはゼロにはできないため、事前の地形・地盤調査と作業計画が必要であり、「上りで作業」といった適切な走行方向、勾配管理、ワイヤロープ等による補助確保、オペレーター教育と教



労働安全研修 向田恵三 講師

育を受けた誘導員配置を組み合わせた作業が基本となるとのことでした。

後半は熱中症対策編の資料により講義が進められ、熱中症を知ること、その要因を把握し対処が必要となること、作業員の体調を確認すること、水分補給などの予防対策を講じること、熱中症の疑いがある場合の報告と措置を知っておくことが大事であるとの説明がありました。

最後に、熱中症は回復後の体調急変もあるので、必ず医療機関で受診させるようにとの指導がありました。

〈産業保健研修〉

『管理監督者向け
メンタルヘルス講座』

講師 独立行政法人労働者健康安全機構

福島産業保健総合支援センター

産業保健相談員 佐藤 美恵氏

「労働者五〇人未満の事業場のストレスチェック制度義務化について」をテーマに講義が進められました。令和七年の改正労働安全衛生法により、これまで五〇人未満の事業場では努力義務であったストレスチェックが正式に義務化され、令和十年四月一日から施行されることから、ストレスチェックを実施して



産業保健研修 佐藤美恵 講師

いない事業場は参考にしてほしいとの前置きがありました。

まず、現状として、仕事で強い不安やストレスを感じる労働者の割合は約五割とされており、精神障害等の労災補償状況を見ると右肩上がりに増加していること、メンタルヘルスに取り組んでいる事業場は小規模ほど低調で、取り組み方がわからない、専門スタッフがないという理由があるとの説明がありました。

小規模事業場でのストレスチェック実施にあたっては、実施者（要件あり）の確保やプライバシーの保護が難しいことから、外部機関に委託することが推奨されているとのことでした。県内の外部委託機関情報も紹介され、県内八カ所にある地域産業保健センター（通称「地さんぽ」）の活用を勧められました。また、留意点として、事業者はストレスチェック結果を入手してはいけないこと、不利益取扱をしてはいけないことが挙げられました。

最後に、五〇人未満事業場のストレスチェックは監督署への結果報告義務はないが、事業者の義務であることから、できるだけ対象者全員が受検することが望ましいとの話がありました。

今回の研修会には、会員企業の管理監督者、人事・労務管理者等、二三名が参加しました。

また、（二社）全国土木施工管理技士会連合会の継続学習制度（CPDS）の認定を受け受講証明書を発行しました。

林業アカデミーふくしま研修日誌③



○六月の研修内容

六月は、森林整備や管理に関する基礎的な知識と技術を学ぶとともに、より安全な林内作業のために救命行為の予行練習を行いました。

また、今月は例年より早く、研修生全員が初めての伐倒を経験しました。

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得
「樹木学」

活用の幅が広がりつつある広葉樹を理解するため、妙見山実習フィールドで樹木の名前や特徴を学びました。

「森林保護」

森林病虫獣害について理解するため、県内での被害が大きいマツ枯れやナラ枯れの被害及び防除の現場等を見学しました。

「森林三次元計測技術」

森林三次元計測システム「OWL」を使った森林調査の方法とデータ解析について学びました。

「ハーベスタシミュレータトレーニング」

伐倒から造材まで可能なハーベスタという林業機械の搭乗型シミュレータで、基本的なレバー操作とハーベスタを操縦するうえで注意するポイントについて学びました。

「林業経営の基礎」

中通りの林業事業体及び指導林家の方からお話を伺い、地域に根ざした林業経営の方針や取り組みについて学びました。

「放射性物質対策」

放射性物質に関する基礎的な知識を学ぶとともに、林内での作業の注意点を学びました。

●森林施業「技術」の習得

「造林・更新」「下刈り、つる切り、枝打ち、除伐」「間伐」

森林整備の意義や目的を理解するため、まず基礎知識や専門用語を学びました。また、現場で森林の見方や選木の考え方を学び、林床の植物から地位を推定する方法や目標林型に応じた森林づくりについて理解を深めました。

「安全の基礎」「労働災害対応」

キックバック装置等により林業災害の衝撃を体験するとともに、林内で事故が起きた際の救助や連絡方法の確認を行いました。

「チェーンソー伐木造材技術」

丸太を使った簡易伐倒で受け口と追い口の練習を行ったのち、研修生全員が初めてスギの初めての伐倒を行いました。緊張や不安の中での伐倒で、

各々課題や練習すべきポイントが明確になりました。

●資格の取得
「救命訓練」

赤十字救急救急員養成講習を受講し、三角巾や担架の使い方等を学ぶとともに、演習により要救助者を発見した際の行動を確認しました。

「不整地運搬車運転技術」

七月以降に実施するフォワーダでの実習に備え、不整地運搬車の技能講習を受講しました。

○研修生の感想

鈴木武秀（すずき たけひで）

今月は外に出る実習も増え、重機を使った講義やチェーンソーを使った講義、下刈り等も行いました。

特に記憶に残ったのは、今まで練習のみだったチェーンソーで初めて伐倒を行ったことです。自分で伐倒方向を決めて想定通りの方向に倒すことはできましたが、時間がかかりすぎたこともあり、もっと練習をするべきだと感じました。

それ以外に林業事業体の経営者の方々から、経営方針や山をどのように整備したいかなどの話を聞く機会があり、目標

を持った森林整備の考え方にも触れることができました。

今後インターンシップが始まり県内の事業体にお世話になるため、少しでも有意義な学びを得られるようにしたいです。

蛭田英勝（ひるた ひでかつ）

六月は、幅広いカリキュラムを通して学びましたが、中でも特に森林保護に関する内容が、自分の考え方を大きく変えるきっかけとなりました。

入講前はチェーンソーで木を伐ることに興味がありましたが、森林保護や造林、除伐、間伐について学ぶ中で、林業は木を伐るだけではなく、森林を育て、守り、未来へつないでいく仕事であることを理解しました。

一本の木を見るのではなく、一つの森を見つめられる林業技術者を目指し、これからも学び続けていきたいと思っています。



初めての伐倒



間伐木の選木実習

普及指導員通信

公共建築物における地域材利用研修会の開催

福島県中農林事務所 林業普及指導員 油井 竜 太

1 はじめに

戦後植林されたスギやヒノキの人工林が本格的な利用期を迎え、持続可能な「森林資源の循環利用（伐つて、使つて、植えて、育てる）」の確立が急務となっています。特に脱炭素社会の実現に向け、木材の炭素固定機能への期待が高まる中、県では「ふくしま県産材利用推進方針」に基づき、建築物の木造化・木質化を推進しています。こうした背景から、建築と林業の連携を深め、地域材のさらなる活用を図るべく、管内市町村職員を対象とした「公共建築物における地域材利用研修会」を開催しました。

2 研修会の内容と成果

(1) 県内における公共建築物の木造化の実例等について

研修ではまず、県中建設事務所

から講師を招き、最新の木造公共建築モデルとして「須賀川農業普及所」を視察しました。庁舎は、県産のスギやヒノキを構造材・内装材に多用するだけでなく、高い断熱性能と太陽光発電等を備えることで、エネルギー消費量を大幅に削減した「Nearly ZEB」の認証を取得しています。参加者は、木の温もりが利用者に与える心理的安心感と、最新の省エネ技術が両立可能であることを学びました。併せて、県の「木造化・木質化建築ガイドライン」に基づき、コスト管理や耐火性能確保といった実務的な解説も行われました。

(2) 地域材と加工技術を活かした建築実践について

続いて、株式会社はりゅうウッドスタジオから講師を招き、地域材活用の留意点や設計事例を学び

ました。また、地域の無垢材（大径材）をふんだんに活用した子ども園を視察し、木の質感や香りが生み出す温かみのある空間が、子どもたちの感性を育む効果を再認識しました。教育施設での地域材利用は、単なる資材調達にとどまらず、地域の誇りや教育的価値を醸成する意義があることを共有しました。

3 今後の取組

参加者からは、木材利用の必要性や発注時の留意点を学べたという声上がる一方、供給体制の脆弱性、流通・価格の不安定さ、関係者間の情報連携不足といった具体的な課題も寄せられました。今後も市町村や関係機関と密に連携し、こうした課題の解決を図りながら、県産材のさらなる利用推進に努めてまいります。



須賀川農業普及所の視察



こども園の視察

林経協
だより

令和八年度通常総会を開催しました

福島県林業経営者協会

福島県林業経営者協会は、令和八年六月二九日、林業会館（福島市）において令和八年度通常総会を開催しました。

令和七年度事業については、全国育樹祭や東北六県・新潟県林業経営者協会連絡協議会、ふくしま皆伐再造林セミナー出席など各林業関係団体との連携や、福島県予算編成に対する要望活動の実績について報告がありました。

令和八年度においても、引き続き林業関係団体との連携を深めていくための事業等の継続実施を盛り込んだ



総会の様子

だ事業計画が承認されました。

また、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会前会長の小檜山善継理事に替わり同協会杉山純一現会長を理事として選任することが決まりました。

総会終了後には、一般社団法人日本林業経営者協会専務理事池田様から令和八年度における日本林業経営者協会の活動についてご講話をいただきました。

講話

令和八年度における日本林業経営者協会の活動について

講師（一社）日本林業経営者協会
専務理事 池田 直弥氏

まず、今年度の主な活動方針としては、持続可能な林業経営の実現を目指し、林業政策に関する情報の迅速な入手と伝達、七部会による調査研究の実施、予算や税制改正に向けた要望活動の実施、季刊誌「杣径」による情報共有に取り組んで行くとの説明がありました。



講話の様子

今後の活動予定としては、各部会の開催を始め、林業後継者養成セミナー現地研修会の開催、青年部会による国会議員や林野庁職員との意見交換会を開催することでした。

最後に、最近の林政の動きについて、いくつか紹介していただきました。

まずは、新たな森林・林業基本計画が六月五日に閣議決定され、この中では森林の区分が「人工林」と「天然林」の二つに再編されること、森林蓄積量が推計により大幅に増加したこと、新たにKPIを設定し三項目の具体的な目標が提示されたとのことでした。

そのほか「経済財政運営と改革の基本方針（いわゆる骨太方針）」が当初予算と補正予算を合わせた抜本的な見直しを行う方向であること、令和七年度林野庁補正予算「林業労働安全確保対策事業」では、装備・



意見交換

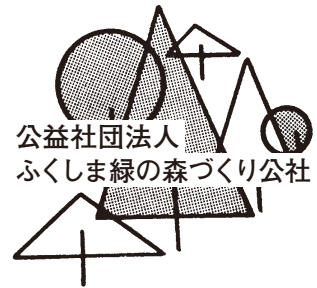
装置の導入や労働安全研修の取り組みを支援していること、除草剤（デゾレートAZ粒剤）のドローン散布による実証実験の結果を確認し、いくつかの自治体による散布試験がおこなわれているほか、説明会等の要望があることの説明がありました。

また、国土緑化推進機構が作成した「森林サービス産業白書」の紹介がありました。これは、森林所有者をはじめ、新規参入者や地域が森林サービス産業に取り組み易いようにノウハウを整理したハンドブックだそうです。

林業経営者団体の会員減少は全国的傾向との話があり、福島県でも新規加入者の確保に向けて互いに働きかけを進めて行くことを確認しました。

団体のページ

公社だより

第13回
定時社員総会を開催
(6月15日)

六月十五日(月)福島市の「杉妻会館」において、ふくしま緑の森づくり公社の第十三回定時社員総会を開催しました。

はじめに、佐藤宏隆理事長から、『当公社におきましては、『第三次緑の森づくり新生プラン』に基づき、施業の重点化を図り、効率的な森林整備を積極的に展開しております。また、将来にわたって持続可能な森林管理を実現するため、Jークレジット制度を活用した新たな収入源の確保にも取り組んでおります。引き続き、市町村や関係団体の皆様と連携しながら、森林整備を適切かつ着実に推進していくとともに、間伐材の積極的な販売などによる経営の安定化に取り組んでまいります。』と挨拶がありました。

次に、川俣町の藤原一二町長を議長に選出して議事に入り、令和七年度の事業報告及び決算の承認、令和八年度賦課金の徴収など四議案についての審議が行われ、原案どおり承認されました。

令和七年度の主な事業実績については、以下のとおりです。

1 効率的な森林整備と森林再生への取組

有利な補助事業を最大限活用し、利用間伐を含めた施業の重点化を図ることにより必要な事業を実施し、効率的な森林整備に努めました。

2 木材生産販売対策の推進等による収入確保

路網の整備やストックヤードの確保による搬出コストの低減を図るとともに、木材需要情報の把握に努めながら、木材市場での委託販売や山土場での買受申込みによる販売など、積極的な木材販売に取り組みました。

また、令和六年度に登録となったJークレジットのプロジェクト計画書に基づきモニタリング調査を実施するとともに、新たに天然林(保安林)の追加申請を行いました。

3 分収造林契約変更の推進
引き続き専任の担当者を配置し

て契約者との交渉を行いました。

その結果、分収割合の変更に付きましては三件、契約期間の延長については一件の同意が得られました。

4 普及・啓発活動の展開

林業労働災害の未然防止を図るため、県等と連携して、伐倒作業における留意事項等について現場指導を実施し、また、林業の人材育成を担う「林業アカデミーふくしま」の研修フィールドの提供や伐採現場の見学などの情報提供を行いました。

5 市町村との連携による森林経営管理制度への挑戦

社員市町村による森林経営管理制度の取組状況について情報収集を行い、公社造林地に近接した区域においては、効率的な森林整備や路網整備に向け、関係町村と連携して計画を進め、令和八年度から事業に着手することとなりました。

6 ICT技術、新たな施業技術の活用

航空レーザー計測データを元に計画的な森林整備や路網整備を行ったほか、地上型3Dレーザー機器を用い、毎木調査等に積極的に活用して、森林資源情報の精度向上や作業の効率化に取り組みしました。

令和八年度は、三五四畝の森林整備や三一、八三四畝の作業路開設など、事業費は約四億二、二〇〇万円の予定です。引き続き関係団体等との連携のもと健全な森づくりに努めてまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

※当公社の概要、第三次新生プラン等については、当公社HPで公表しております。

(URL: <https://www.fuku-rin.jp>)



挨拶する佐藤理事長



地上型3Dレーザー機器による森林資源調査(南会津町)

木の文化を育む⁽⁸⁹⁾

伝統の技を地域の未来へく修復の技がひろく 地域文化の未来く(神楽工房はしもと)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

はじめに

地域の祭りや伝統芸能は、演じる人々だけでなく、そこで使われる道具を守り継ぐ職人の手仕事によって支えられています。長い年月を経た神楽面や獅子頭の形や彩色を読み取り、再び使えるように修復することは、道具とともに受け継がれてきた人々の祈りや地域の記憶を守ることでもあります。こうした伝統の技は、地域の文化を未来へつないでいく大切な役割を担っています。

○受け継がれてきた修復の技

二本松市の「神楽工房はしもと」は、約一三〇年、五代にわたって続く橋本仏具彫刻店の技を受け継ぎ、修復を専門に手がける工房です。橋本仏具彫刻店では、神社仏閣の彫刻や修復、仏壇や仏具の製作・修理を通して、木彫や漆塗り、彩色、箔押しなどの技が代々受け継がれてきました。代表の橋本篤さんは、家業の中で培われてきた技を活かし、神楽面や獅子頭をはじめ、山車や神社仏閣に関わる品々の修復に携わっています。

ます。

○地域の祭りを支える修復

神楽面や獅子頭には、長い年月にわたって使われる中で、割れや欠け、彩色の剥がれなどが生じます。修復では、木部の状態や残された色、漆の質感を確かめ、その道具が本来もっていた形や表情を読み取りながら、一つ一つ丁寧に手を加えていきます。新しいものにつくり替えるのではなく、残せる部分を活かして必要な箇所を補い、木彫や漆塗り、彩色、箔押しなどの技を組み合わせて使われます。修復された道具が再び祭られた人々の祈りや地域の記憶も受け継がれていきます。

○伝統の技を伝える箸づくり

工房では、修復に用いる漆の技を身近に感じてもらうため、箸づくりのワークショップにも取り組んでいます。参加者は、漆を塗り重ねた箸を研ぎ、内側に施された螺鈿の色や模様を少しずつ表面に現しながら、自分だけの箸を仕上げます。実際に

手を動かし、素材の変化や手仕事の工程に触れることで、専門的な技を楽しむながら知ることができます。観光で二本松を訪れる人々や海外からの参加者に、漆の美しさや日本の手仕事、地域に受け継がれてきた文化を伝える機会にもなっています。

○地域の技と風景を形に

橋本さんは、漆や箔押しなどの技を現代の暮らしへ広げるため、革製品ブランド「篤一（Atsushi）」を立ち上げました。革に漆や箔を施すほか、地域に受け継がれてきた和紙づくりの技術を取り入れた製品づくりにも取り組んでいます。革と漆は、使い続けることで艶や色合い、手触りが変化するし、経年変化で素材が育っていく楽しみがあります。製品のデザインには、朝日や夕日、霧に包まれた風景など、地域の自然が見せるさまざまな情景が取り入れられています。

伝統の技とその土地ならではの風景を一つの製品に重ねることで、二本松に息づく文化をより多くの人々に伝えていきます。

○まとめ

神楽工房はしもとでは、受け継がれてきた木彫や漆、彩色、箔押しなどの技によって、祭りの道具に込められた地域の記憶や人々の思いを守っています。受け継がれてきた技を体験の機会として広く伝えたり、現代の暮らしに合うものづくりへと

展開したりすることで、伝統文化には新たなつながりが生まれます。修復によって文化を守り、体験や製品を通してその魅力を伝える取組は、地域の伝統を未来へ受け継いでいく力となっています。



皮と漆のiPadスリーブケース



彼岸獅子で使われる獅子頭の修復作業の様子

県森連いわき共販における木材市況（7月分）

令和8年8月1日
福島県森林組合連合会

（単位：㎡当り千円）

樹 種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	13.5	12.8	
	3.65	16上			
		24上	11.5	10.3	
	3.00	9下	11.5	9.5	
		10～13	11.5	10.3	
		14～16	12.1	11.5	
		18～20	14.8	11.5	
		22上	15.1	13.5	
ヒノキ	4.00	10～13	9.5	8.8	
		14～16	16.5	14.0	
		18～20	16.5	15.0	
		22上	16.5	15.2	
	3.00	16～20	15.9	14.5	
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	

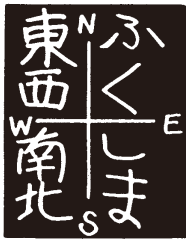
樹 種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
クリ	4.00	16上	12.0	11.0	
	3.00	16上	11.0	10.5	
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	8月の共販日
販売量は2,185㎡（前年同月比76%）でした。 スギ3m、4m材とも、活発に取り引きされ、 価格も値上がり傾向です。 引き続き、良材の出荷、よろしくお願いいたします。	5日(水) 27日(木)

行 事 と お 知 ら せ
5日(水) 七夕市 いわき木材流通センター 県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 検索

福島県の桐丸太生産量は、全国統計が開始以来、ずっと上位であり、ここ三〇年にあつては日本一です。ほぼ会津地方で生産され、全国的には「会津桐」と称される最高級ブランドとして高名です。特に伝統的な天然あく抜き乾燥法により製作された「光る桐」板は、製品素材のエースとして、もともと注目されています（注）。このエース素材を使った高級米びつや高級内装材などの新たな需要創出の効果等により、従来減少し続けてきた県内の丸太生産量は、近年少しずつ増加している傾向です。このことから、今後も引き続き、会津地方等において、良質な桐資源を維持・増進することが求められており、このためには桐苗の継続的な生産と植栽が必要不可欠です。

会津里山森林資源育成研究会では、福島県が開発した新方式の桐苗木である「桐玉植苗」の生産と植栽に取り組んでいます。桐玉植苗は、八号以上の大きな鉢で育成されて、植栽時には根鉢（根のかたまり）が玉状を呈することから名付けられます。

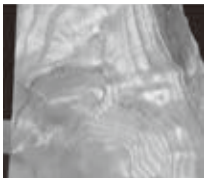


桐の未来を拓く桐玉植苗の
生産と植栽

会津里山森林資源育成研究会 星 比呂志
（福島県林研グループ連絡協議会会員）

した。栄養をたっぷり蓄えた根鉢により、ロケットスタートの初期成長が実現し、長い直材を得ることが出来ます。幅広の掛け軸収納箱や琴など伝統的用途でも、前述の新局面においても、長い直材が得られることは、製品製作や歩留まりなどにおいて大変有利で、桐玉植苗はこのための優れた苗木です。

当研究会では、今後、桐玉植苗の生産と植栽に、これまで以上に取り組んでいくこととしています。



光る桐



（植栽時）



桐玉植苗
（育成時）

（注）YouTube 福島県森林文化記録映像「第22章 会津桐（後編）」6分10秒頃からをご覧ください。

表紙の写真



「皆鶴姫が見た夜空」

第40回ふくしま緑の写真コンクール
銀賞
受賞者 笹岡伸仁さん(猪苗代町)
撮影場所：会津若松市河東町
撮影スポット：稲荷神社

発行
人 行

陽光社印刷株式会社
柳田 範久
(定価 一〇〇円)

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

はなしの
ひろば

質のいい時間

郡山市立美術館で「夢は叶えるもの ターシャ・チューダー人生の軌跡展」を観てきた。

ナチュラルガーデンで名高いターシャの庭は、五六歳から自らの手で作りあげたもので、立体感や奥行き感を出す花や豪華で美しい花。そして可憐な小さい花達が群生をなし、二五〇種の草花たちが居心地よく自然に息づいている。そのほか、自給自足のための野菜畑やハーブガーデン、ヤギやガチョウなど動物たちのスペースも作られている。ターシャは、機械をほとんど使わずに、自分で作った堆肥で有機栽培をしていたといわれる。それは、人工ではなく自分らしくていいねに暮らすための時間をいとわれないということだ。

館内には、ターシャが使っていた日常の道具や食器、身に纏っていた洋服が展示されていた。ひとつひとつの道具に、一枚一枚の洋服にターシャの仕事の息遣いやまなざしが伝わってくる。そして、七〇年の間に描いた一〇〇冊の絵本の一部も観ることができる。絵本のどのページを切り取っても、一枚の絵として充分堪能できるほどの風景描写とやさしい色合いに吸い込まれていく。庭も絵本もターシャの「好き」と「喜び」を永遠に伝えていくだろう。ターシャの暮らしは、自分の好きにかける時間をいとわれないこと、そして、そのていねいな時間の重なりが喜びになること。なんて質のいい時間なのだろう。

美術館を出たら八月のむせかえる残暑だが、自分の心が軽くなったことに気がつく。ターシャの質のいい時間が自分をリセットしてくれたに違いない。

第一五九話(都)

お知らせコーナー

第11回福島県きのこ料理コンクール 作品募集

きのこについての正しい知識とその利活用の普及に向けて、県産きのこを主に使用したオリジナルのきのこ料理を募集しています。

県民の皆様からの多数のご応募をお待ちしています。

1. 応募資格

- 16歳以上または高校生以上で、県内在住の方（県内の大学等へ通学されている方も対象とする）
- 応募は、個人（グループの場合は代表者）とする

2. 応募条件

- きのこを用いた未発表の料理
- 福島県内で生産されたきのこを主として使用
※県産きのこの販売先：JA直売所、道の駅等
- 材料費は、4人分で2,000円以内
- 調理時間は1時間以内
※乾燥きのこ等をもどす時間を除く。
- 本審査に参加できること

3. 日 程

- 応募締切 令和8年9月14日(月)(必着)
- 本審査（調理審査）

期日 令和8年11月21日(土)

4. 応募方法

- 応募用紙(所定)に必要事項を記載するとともに作品の写真(カラー)を添付し、応募先に郵送又はメールで送付。メールの場合は写真のデータを必ず添付。

○詳細は当協会のホームページをご確認ください。応募の際は、応募用紙をダウンロードしてご使用ください。

→当協会ホームページ(<https://www.fukurin-net.jp/>)



第10回県知事賞受賞作品



第10回優秀賞作品(全国大会出場作品)

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たもちい

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

GFB-90S

フェラーバケット
グラップル

新発売

イワフジ独自の2WAYバケットと格納式ソーユニットを装備した
道付け用オールインワンアタッチメント

For the future with forest

IWAFUJI

イワフジ工業株式会社



Website



Instagram



YouTube



(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

TEL: 0197-23-3111 FAX: 0197-25-3177

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1